# 平成25年３月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成24年８月８日


上場会社名　　アドアーズ株式会社　　上場取引所　大
コード番号　　４７１２　ＵＲＬ　http://www.adores.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役会長　　（氏名）藤澤　信義
問合せ先責任者　（役職名）常務取締役　　（氏名）恩田　聖敬　　ＴＥＬ　03（5843）8800

四半期報告書提出予定日　　平成24年８月９日　　配当支払開始予定日　　――
四半期決算補足説明資料作成の有無：　無
四半期決算説明会開催の有無　　：　無

（百万円未満切捨て）

１．平成25年３月期第１四半期の業績（平成24年４月１日～平成24年６月30日）

（１）経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 25年３月期第１四半期 | 4,966 | △19.9 | 274 | △42.6 | 246 | △44.3 | 287 | △53.5 |
| 24年３月期第１四半期 | 6,198 | 7.1 | 477 | 198.6 | 441 | 303.6 | 617 | 1,734.0 |

| | １株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後１株当たり四半期純利益 |
|---|---|---|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 25年３月期第１四半期 | 2.38 | ― |
| 24年３月期第１四半期 | 5.65 | ― |

（２）財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | １株当たり純資産 |
|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 25年３月期第１四半期 | 18,417 | 9,468 | 51.4 | 78.55 |
| 24年３月期 | 19,911 | 9,316 | 46.8 | 77.29 |

（参考）自己資本　　25年３月期第１四半期　　9,468百万円　　24年３月期　　9,316百万円

２．配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 第１四半期末 | 第２四半期末 | 第３四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 24年３月期 | ― | 0.00 | ― | 1.00 | 1.00 |
| 25年３月期 | ― | | | | |
| 25年３月期（予想） | | 0.00 | ― | ― | ― |

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無
※平成25年３月期（予想）の期末配当は未定となっております。

３．平成25年３月期の業績予想（平成24年４月１日～平成25年３月31日）

（%表示は、通期は対前期、第２四半期（累計）は対前年同四半期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | １株当たり当期純利益 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第２四半期（累計） | 10,500 | △14.5 | 600 | △28.9 | 550 | △29.7 | 420 | △51.9 | 3.48 |
| 通期 | 20,750 | △5.0 | 1,005 | 0.3 | 935 | 0.4 | 700 | △23.9 | 5.80 |

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　有

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（３）発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ①　期末発行済株式数（自己株式を含む） | 25年３月期１Ｑ | 124,557,592株 | 24年３月期 | 124,557,592株 |
| ②　期末自己株式数 | 25年３月期１Ｑ | 4,020,878株 | 24年３月期 | 4,019,592株 |
| ③　期中平均株式数（四半期累計） | 25年３月期１Ｑ | 120,537,150株 | 24年３月期１Ｑ | 109,288,000株 |

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

本四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表レビュー手続きを実施中です。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次


１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 1
（１）経営成績に関する定性的情報 …… 1
（２）財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 4
（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
３．継続企業の前提に関する重要事象等 …… 4
４．四半期財務諸表 …… 5
（１）四半期貸借対照表 …… 5
（２）四半期損益計算書 …… 8
第１四半期累計期間 …… 8
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 9
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 9
（５）セグメント情報等 …… 9
（６）重要な後発事象 …… 10

## １．当四半期決算に関する定性的情報

### （１）経営成績に関する定性的情報

当第１四半期累計期間におけるわが国経済は、昨年発生した東日本大震災を乗り越え、緩やかながら回復基調が見られたものの、長引く円高に加え、ギリシャ国債に端を発するユーロ圏全土を巻き込んだ欧州債務危機による海外経済の低迷に影響を受けた国内金融不安などにより、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

当社が属する国内アミューズメント施設運営事業におきましては、震災後１年を経ても依然として尾を引く原発問題から派生した企業・一般家庭双方の電気料金の値上げ、増税への政府指針による個人消費の節約志向なども相まって、業界全体は軟調傾向に推移致しました。

この環境下において、当社は前期からの藤澤信義を新代表とする「経営変革」をさらに加速させ、企業としての新たな「成長」を図るべく、平成24年5月29日付「決算発表資料の追加（役員の異動）に関するお知らせ」のとおり、役員人事の刷新を実施致しました。この新体制については、当社の主力事業であるアミューズメント施設運営事業を率いた小野寺宏昭を新たな取締役社長とし、その後任に当社の前身である株式会社シグマからの生え抜きである石井学を取締役兼アミューズメント統括本部長に据えるなど、経営陣の若返りを図ることで、更なる本社・現場間の意思疎通の迅速化ならびに社内の活性化を狙うものであります。

また、同日付「アドアーズ株式会社と株式会社ネクストジャパンホールディングスの資本・業務提携の変更に関するお知らせ」ならびに「親会社の異動に関するお知らせ」のとおり、「その他の関係会社」として当社株式を間接所有していたJトラスト株式会社が、同社の子会社であり、且つ当社筆頭株主であった株式会社ネクストジャパンホールディングスを吸収合併したことを受け、Jトラスト株式会社が実質的に当社の親会社となりました。また、Jトラストグループインするにあたり、今後の各社間における情報共有・意思決定の迅速化を目的として、当社の本社所在地も東京都中央区日本橋から、Jトラストグループ各社が構える東京都港区虎ノ門に移転しております。

更に、昨年度より注力している有利子負債の圧縮を目標とした財務体質の強化に向けた財務戦略については、この６月に長期への借入金の組み換え（リファイナンス）を実現し、数年内での実質的な無借金経営に向けて、キャッシュフローの安定化に向けた財務体制を実現致しました。

事業戦略面におきましては、事業セグメント毎の担当役員を見直すとともに、主力事業であるアミューズメント施設運営事業では各種集客施策の強化と、節電対応を含めたコスト削減、さらにグループ内のＫＣカード株式会社との業務提携による新規事業として前期末に第1号店舗を開設した「レンタル！アドアーズ」も2、3号店を順次開設するなど、積極的な事業展開を図りました。第2の柱である設計・施工事業におきましても、人員体制の充実、地方営業拠点の新規開設など、今後の安定した新規案件の受注獲得に向けた体制作りを展開しております。

しかしながら、昨年度、復興特需による好調さが後押しした主力のアミューズメント施設運営事業において相対的に伸び悩んだことや、設計・施工事業においても同様に昨年度震災による受注が集中したことによる相対的な受注減によって、全社売上高につきましては4,966百万円（前年同四半期比1,231百万円減・△19.9%）と減収となりました。

利益面におきましても、上記売上の減少による利益減を補うべく、各事業部の徹底したコスト削減や管理部門においても全社的な合理化策を推進したものの（同期間の販管費△20百万円）、営業利益につきましては274百万円（同203百万円減・△42.6%）、経常利益246百万円（同195百万円減・△44.3%）と減益となりました。また四半期純利益におきましても、当社保有不動産物件の売却による特別利益を計上したものの、287百万円（同330百万円減・△53.5%）と減益となりました。

セグメント別の業績の概要は以下のとおりとなります。

（アミューズメント施設運営事業）

| | 平成24年度第１四半期累計期間（実績） | 平成25年度第１四半期累計期間（実績） | 前年同四半期比 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 4,631百万円 | 4,053百万円 | △12.5% |
| セグメント利益 | 539百万円 | 398百万円 | △26.1% |

当社の主力事業であるアミューズメント施設運営事業におきましては、電気料金値上げや増税指針に対する個人消費マインド低迷の影響が続く中、これまで継続推進してきた新規顧客層の獲得を、改めて今期の最重要課題と定め、新体制のもと、一丸となって取り組みました。

その集客施策におきましては、閉店店舗より発生した余剰マシンの有効活用により、新たな費用負担を抑えつつマシンラインナップの再充実を図るハード面の強化はもちろんのこと、客足が遠退きやすい梅雨時期限定の全店規模の「アメ得」キャンペーンの展開などに代表されるイベント面での提案力の強化、更にはゲームマシンのメンテナンスの徹底による遊戯環境への改善に取り組みました。

こうした集客向上策の傍ら、迫る電気料金の値上げ問題に対応しながらお客様の満足度をも充足できる節電対策・店舗運営体制の構築に注力致しました。特に節電につきましては、前期中の施策をさらに一歩踏み込み、ゲームマシン照明のLED化を推し進めたほか、空調清掃の内製化を図る等、現時点でできる施策を徹底的に行っております。

こうした運営体制の転換ならびに各種集客施策により、既存店売上高の前年水準からの落ち込みを限定的なものとした上で（下記、「既存店売上高前年比推移」ご参照）、マシン等各種資産の有効活用によるコスト削減・合理化策等を図りましたが、売上高は4,053百万円（前年同四半期比△12.5%）、セグメント利益398百万円（同△26.1%）の減収減益となりました。

●既存店売上高前年比推移

| 4月 | 5月 | 6月 |
|---|---|---|
| 93.8% | 93.4% | 95.2% |

また、親会社であるＪトラスト株式会社のグループ傘下のＫＣカード株式会社との共同事業であるレンタルＤＶＤ・ビデオ事業におきましては、昨年度末に開設した「レンタル！アドアーズ成増店」に続き、5月より既存レンタル店を譲り受け、「レンタル！アドアーズ町田店」、「レンタル！アドアーズ藤沢店」としてリニューアルオープン致しました。

また、昨年度より展開しておりますカプセル自販機の設置・運営委託事業におきましても、カプセル自販機一台あたりの平均売上高は当初想定の水準を確保しており、概ね順調に推移しております。

※なお当第１四半期累計期間において、『アドアーズ竹ノ塚店』を閉店しております。

（設計・施工事業）

| | 平成24年度第１四半期累計期間（実績） | 平成25年度第１四半期累計期間（実績） | 前年同四半期比 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 1,336百万円 | 693百万円 | △48.1% |
| セグメント利益 | 83百万円 | 39百万円 | △53.0% |

設計・施工事業におきましては、中・大型ホールの内外装工事を複数受注した他、各種飲食施設などを中心に新規案件を獲得したものの、昨年度の同時期においては震災影響により受注が集中したこともあり、昨年実績からは下回る結果となりました。また、競争激化によって利益率も伸び悩み、売上高693百万円（前年同四半期比△48.1%）、セグメント利益39百万円（同△53.0%）と減収減益となりました。

（不動産事業）

| | 平成24年度第１四半期累計期間（実績） | 平成25年度第１四半期累計期間（実績） | 前年同四半期比 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 216百万円 | 215百万円 | △0.8% |
| セグメント利益 | 4百万円 | 4百万円 | △2.1% |

不動産事業におきましては、一部テナントからの減額要請等、時限的な収益減に対応せざるを得ない状況が続く中、管理不動産物件の入居率を概ね計画通りに維持した他、各種テナントリーシングによる効率的な不動産活用および物件の仲介に注力した結果、売上高は215百万円（前年同四半期比△0.8%）・セグメント利益4百万円（同△2.1%）となりました。なお、前事業年度末以前に減損・評価減を実施した不動産を一部売却しております。

（２）財政状態に関する定性的情報

当第１四半期累計期間末の資産につきましては、前事業年度末に比べて1,493百万円減の18,417百万円となりました。これは主として有形固定資産の売却及び償却進行、また現金及び預金が減少したことによるものです。

負債につきましては、前事業年度末に比べて1,645百万円減の8,949百万円となりました。これは主として支払手形及び有利子負債が減少したことによるものです。

純資産につきましては、前事業年度末に比べて151百万円増の9,468百万円となりました。これは主として配当金の支払及び四半期純利益の増加による影響であります。

（３）業績予想に関する定性的情報

当第１四半期累計期間につきましては前述の通り、軟調傾向の事業環境下において、緩やかなスタートとはなりましたが、主力のアミューズメント事業を中心に概ね計画通りの売上を確保しながら、前期より続く合理化策・コスト削減の推進によって想定の範囲内の収益を確保致しました。また、役員人事の刷新、Ｊトラストグループへの参画など、経営体制・協力企業群の強化を図ることによる新たな成長ステージに向けた体制の構築を図りました。さらに財務戦略の推進の中、金融機関からの長期的な支援体制の構築をも実現致しましたが、これは先行投資がかさむアミューズメント事業を主力とする当社において、今後の飛躍に向けて確かな礎が整ったものと考えております。

一方、経済全体の先行きの不透明さに加えて、今後控える電気料金値上げや増税状況等を鑑みた場合、依然、楽観視できる状況にはなく、引き続き、「基本に忠実」かつ「変化に敏感」な経営・運営を推し進める必要があると認識しております。

主力のアミューズメント施設運営事業におきましては、繁忙期にあたる夏休みシーズンを見据え、当社メダル会員へ向けた大規模なダイレクトメールによる販促活動や、これに全店規模で連動する「夏のダブルチャンスキャンペーン」の開催など、徹底した集客施策を図ります。さらに今夏におきましては、1年９ヵ月ぶりの新規出店となる秋葉原への進出も果たしますが、当地域は国内だけでなく世界に知られるゲーム・サブカルチャーの聖地でもあり、その絶大な集客力はもちろんのこと、当社の新たなランドマークとしてアドアーズブランド全体の認知向上にもつながるものと確信しております。このように、当期においては、既存顧客の囲い込み施策と新規顧客層の獲得に資する集客施策を徹底的に推進し、収益性の維持・向上を目指してまいります。

また、第二の柱である設計・施工事業におきましては、人員体制の充実や不動産部門との連携の強化による物件開発から設計・施工、引き渡し後のアフターフォローまで、一貫したお客様目線に立ったトータルプロデュースのできる体制の構築など、安定した新規案件の受注獲得に向けた仕組み作りを展開してまいります。

上記のとおり、全社一丸となって期初開示の売上・利益計画達成にまい進してまいりますので、今期業績見通しにつきましては、すべての項目におきまして据え置くものと致します。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

## ２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用に関して、当第１四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期当期純利益に当該実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## ３．継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## ３．四半期財務諸表

### （１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

| | 前事業年度<br>（平成24年３月31日） | 当第１四半期会計期間<br>（平成24年６月30日） |
|---|---|---|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金預金 | 3,364,571 | 2,960,453 |
| 受取手形・完成工事未収入金等 | 1,279,767 | 902,416 |
| 未成工事支出金 | 1,649 | 2,258 |
| 貯蔵品 | 124,759 | 162,469 |
| 前払費用 | 477,662 | 466,943 |
| 繰延税金資産 | 71,362 | 71,362 |
| その他 | 172,529 | 52,730 |
| 貸倒引当金 | △1,154 | △1,064 |
| 流動資産合計 | 5,491,147 | 4,617,569 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| アミューズメント施設機器 | 18,466,977 | 18,171,834 |
| 減価償却累計額、アミューズメント施設機器 | △15,380,787 | △15,331,564 |
| アミューズメント施設機器(純額) | 3,086,190 | 2,840,270 |
| 建物 | 9,570,006 | 9,243,027 |
| 減価償却累計額 | △7,655,781 | △7,408,246 |
| 建物（純額） | 1,914,225 | 1,834,781 |
| 構築物 | 20,726 | 20,726 |
| 減価償却累計額 | △18,636 | △18,720 |
| 構築物（純額） | 2,090 | 2,005 |
| 車両運搬具 | 1,396 | 1,396 |
| 減価償却累計額 | △1,335 | △1,346 |
| 車両運搬具（純額） | 60 | 50 |
| 貸与資産 | 285,987 | 249,167 |
| 減価償却累計額 | △273,741 | △239,224 |
| 貸与資産(純額) | 12,246 | 9,942 |
| 工具器具・備品 | 716,988 | 712,693 |
| 減価償却累計額 | △654,037 | △655,278 |
| 工具器具・備品（純額） | 62,950 | 57,414 |
| 土地 | 1,306,182 | 1,136,384 |
| リース資産 | 987,651 | 987,651 |
| 減価償却累計額 | △855,845 | △873,396 |
| リース資産（純額） | 131,806 | 114,254 |
| 建設仮勘定 | 15,007 | 15,622 |
| 有形固定資産合計 | 6,530,758 | 6,010,727 |
| 無形固定資産 | | |
| 借地権 | 293,602 | 293,602 |
| のれん | 206,588 | 191,157 |
| その他 | 48,506 | 34,166 |
| 無形固定資産合計 | 548,698 | 518,925 |

（単位：千円）

| | 前事業年度<br>（平成24年３月31日） | 当第１四半期会計期間<br>（平成24年６月30日） |
|---|---|---|
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 32,296 | 31,201 |
| 関係会社株式 | 143,040 | 121,226 |
| 敷金及び保証金 | 6,401,701 | 6,453,682 |
| 長期受取手形 | 275,240 | 187,790 |
| 関係会社出資金 | 23,089 | － |
| 破産更生債権等 | 120,758 | 119,586 |
| 長期前払費用 | 32,447 | 35,148 |
| 繰延税金資産 | 369,214 | 377,250 |
| その他 | 127,001 | 127,218 |
| 貸倒引当金 | △184,089 | △182,693 |
| 投資その他の資産合計 | 7,340,701 | 7,270,412 |
| 固定資産合計 | 14,420,158 | 13,800,065 |
| 資産合計 | 19,911,305 | 18,417,635 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形・工事未払金等 | 3,048,537 | 2,618,348 |
| 短期借入金 | 1,207,670 | 25,300 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 3,871,605 | 1,709,604 |
| 未払金 | 348,646 | 312,141 |
| 未払費用 | 95,697 | 78,815 |
| リース債務 | 86,599 | 67,840 |
| 未払法人税等 | 62,497 | 23,251 |
| 未払消費税等 | 36,829 | 79,024 |
| 前受金 | 165,110 | 140,606 |
| 未成工事受入金 | 138,421 | 3,911 |
| 預り金 | 37,096 | 49,121 |
| 1年内償還予定の社債 | 212,600 | 33,600 |
| 資産除去債務 | 51,384 | 12,904 |
| その他 | 57,120 | 56,614 |
| 流動負債合計 | 9,419,817 | 5,211,083 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 200,000 | － |
| 長期借入金 | 334,765 | 3,122,622 |
| 預り保証金 | 425,833 | 401,721 |
| リース債務 | 20,049 | 16,562 |
| 資産除去債務 | 193,942 | 197,033 |
| 固定負債合計 | 1,174,590 | 3,737,940 |
| 負債合計 | 10,594,407 | 8,949,023 |

（単位：千円）

| | 前事業年度<br>（平成24年３月31日） | 当第１四半期会計期間<br>（平成24年６月30日） |
|---|---|---|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 4,405,000 | 4,405,000 |
| 資本剰余金 | 4,359,307 | 4,359,307 |
| 利益剰余金 | 920,025 | 1,086,498 |
| 自己株式 | △426,512 | △426,683 |
| 株主資本合計 | 9,257,820 | 9,424,121 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 59,076 | 44,489 |
| 評価・換算差額等合計 | 59,076 | 44,489 |
| 純資産合計 | 9,316,897 | 9,468,611 |
| 負債純資産合計 | 19,911,305 | 18,417,635 |

（２）四半期損益計算書
（第１四半期累計期間）

（単位：千円）

| | 前第１四半期累計期間<br>（自　平成23年４月１日<br>至　平成23年６月30日） | 当第１四半期累計期間<br>（自　平成24年４月１日<br>至　平成24年６月30日） |
|---|---|---|
| 売上高 | 6,198,222 | 4,966,464 |
| 売上原価 | 5,204,363 | 4,196,212 |
| 売上総利益 | 993,859 | 770,252 |
| 販売費及び一般管理費 | 516,677 | 496,146 |
| 営業利益 | 477,182 | 274,105 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 950 | 994 |
| 家賃収入 | 4,151 | 1,967 |
| 広告協賛金 | 9,999 | 9,126 |
| 保険返戻金 | － | 5,542 |
| その他 | 12,724 | 6,547 |
| 営業外収益合計 | 27,826 | 24,178 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 51,814 | 27,270 |
| 社債発行費 | 2,095 | － |
| 資金調達費用 | － | 19,100 |
| その他 | 9,401 | 5,810 |
| 営業外費用合計 | 63,310 | 52,180 |
| 経常利益 | 441,698 | 246,103 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 20,486 | 103,202 |
| 投資有価証券売却益 | － | 845 |
| 賞与引当金戻入額 | 160,966 | － |
| その他 | 6,842 | 390 |
| 特別利益合計 | 188,295 | 104,438 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | － | 4,501 |
| 固定資産除却損 | 108 | 6,666 |
| 減損損失 | － | 21,508 |
| 解約違約金 | － | 16,090 |
| その他 | 418 | 4,725 |
| 特別損失合計 | 526 | 53,491 |
| 税引前四半期純利益 | 629,467 | 297,050 |
| 法人税等 | 11,750 | 10,039 |
| 四半期純利益 | 617,717 | 287,010 |

（３）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

（５）セグメント情報等
Ⅰ　前第１四半期累計期間（自平成23年４月１日 至平成23年６月30日）
１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報
「Ⅱ　当第１四半期累計期間 ２.報告セグメントの変更等に関する事項」に記載のとおりであります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ　当第１四半期累計期間（自平成24年４月１日 至平成24年６月30日）
１.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

| | 報告セグメント | | | | その他（注）１ | 合計 | 調整額（注）２ | 四半期損益計算書計上額(注)３ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | アミューズメント施設運営事業 | 設計・施工事業 | 不動産事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 4,053,192 | 693,091 | 215,067 | 4,961,352 | 5,112 | 4,966,464 | － | 4,966,464 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 計 | 4,053,192 | 693,091 | 215,067 | 4,961,352 | 5,112 | 4,966,464 | － | 4,966,464 |
| セグメント利益 | 398,091 | 39,216 | 4,163 | 441,472 | 3,448 | 444,920 | △170,815 | 274,105 |

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パチスロ機周辺機器レンタル事業であります。
２．セグメント利益の調整額△170,815千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△170,815千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
３．セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２.報告セグメントの変更等に関する事項

当第１四半期会計期間より、従来報告セグメントでありました「レンタル事業」が計画的な事業収束に向かい報告セグメントに含まない「その他」へ区分致します。これにより「アミューズメント施設運営事業」「設計・施工事業」「不動産事業」「レンタル事業」と従来４つの報告セグメントとしておりましたものを「アミューズメント施設運営事業」「設計・施工事業」「不動産事業」の３つの報告セグメントと上述の「その他」の区分とに変更致します。

なお、変更後の事業区分による前第１四半期累計期間のセグメント情報は以下のとおりです。

前第１四半期累計期間（自平成23年４月１日 至平成23年６月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

| | 報告セグメント | | | | その他（注）１ | 合計 | 調整額（注）２ | 四半期損益計算書計上額(注)３ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | アミューズメント施設運営事業 | 設計・施工事業 | 不動産事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 4,631,041 | 1,336,571 | 216,837 | 6,184,449 | 13,772 | 6,198,222 | － | 6,198,222 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 計 | 4,631,041 | 1,336,571 | 216,837 | 6,184,449 | 13,772 | 6,198,222 | － | 6,198,222 |
| セグメント利益 | 539,501 | 83,403 | 4,254 | 627,159 | 6,150 | 633,309 | △156,127 | 477,182 |

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パチスロ機周辺機器レンタル事業であります。

２．セグメント利益の調整額△156,127千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△156,127千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「アミューズメント施設運営事業」セグメントにおいて、収益性が低下し投資額の回収が困難と見込まれるアミューズメント施設機器を減損損失として特別損失へ計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第１四半期累計期間において14,326千円であります。

また、報告セグメントに属さない本社、内装造作資産を本社機能移転の決定を受けて減損損失として特別損失へ計上しております。当該減損損失の計上額は、当第１四半期累計期間において7,181千円であります。

（６）重要な後発事象

該当事項はありません。